

2025年度 町田市立町田第六小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月31日

学校教育目標	心豊かにたくましく、伝え合い、認め合い、学び合う子供の育成	学校経営の重点	児童の学ぶ意欲を高め、児童が共に伝え合い、高め合い、共に学ぶことにより、他者と学ぶ価値や楽しさを実感できる授業をつくる。国語科を中心とした基礎的な学力の向上を目指す。
○目指す学校像……①どの子供も明るく、楽しく、支え合い、学び合い、明日の登校を待ち望む学校 ②保護者・地域から信頼され、安心して子供を通わせたい学校 ③教職員が教育に対する夢と使命感をもち、子供一人一人の成長を喜び合えるチームの学校		重点目標の成果と課題	成果：授業の中で、児童が自分の考えをもったり、友達と伝え合ったりする場を意識して設定することで、学習に向かう姿勢が一定程度見られた。また、習熟度別指導や外部人材を生かした学習など、学ぶ意欲を高めるための工夫を行ってきた。
○目指す児童・生徒像……①深く学ぶ子 みんなと協力し、自ら学び、伝える力を高め、活用力のある学力を確実に身に付けた子 ②一人一人の違い、人間の多様性を認め、思いやりの心と行動力をもち合わせた心豊かな子 ③命を大切に、健康で安全な生活を心掛け、体力の向上に努める心身ともに健康でたくましい子		課題	全国学力・学習状況調査の結果からは、基礎的・基本的な学力の定着について、引き続き改善が必要な点が見られた。学年や児童による差を踏まえ、指導内容や方法を見直しながら、学力の向上に向けた取組を継続していく必要がある。
○目指す教師像……①子供の成長を期待し、自らの資質向上に努める教師 ②学校教育目標達成のために組織的に尽力する教師 ③家庭・地域との			

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価	
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	学校からの迅速で効果的な情報発信と受信・共有を行い、教育活動への理解を求める。	学校だより等の掲載、学校公開や保護者会等の予定や方法の発信などホームページの更新をする。緊急メールの活用と問い合わせへの即時対応に努める。	4 各学年月3回以上の更新、電話等への即時対応 3 各学年月2回以上の更新、電話等への即時対応 2 各学年月1回以上の更新、電話等への即時対応 1 更新なし、電話等への即時対応	3	B	4 保護者アンケート(3)「学校は、保護者や地域の方に対して情報発信をしている。」肯定的回答90%以上 3 保護者アンケート肯定的回答80%以上 2 保護者アンケート肯定的回答70%以上 1 保護者アンケート肯定的回答70%未満	96.7	A	・学校だよりやホームページを活用し、教育活動や学校行事の様子について継続的に情報発信を行ってきた。学校の取組を知る機会が確保され、保護者から一定の理解が得られている。 ・学校公開や保護者会等を通して、授業や学校生活の様子を直接伝える取組を行い、学校の教育活動に触れる機会を設けた。	・引き続き、学校だよりやホームページの内容を工夫し、教育活動のねらいや子どもたちの姿がより分かりやすく伝わる情報発信を継続する。 ・学校公開や保護者会等の機会を工夫し、学校の取組や教育活動について丁寧に説明する取組を進める。	【情報発信について】 ・「学校だより」「学年だより」や不審者情報などの発信が迅速に行われている。 ・学校からの情報発信や、児童の安全を守るための緊急連絡・解決に関する情報発信は適切に行われており、評価できる。 ・近年この情報が増える中で、teturuと紙媒体それぞれの特徴を生かして、より効果的な使い分けにより、家庭・地域の理解と支援が一層高まることを期待したい。 ・毎月、teturuを通して学校だより・学年だよりが配信されることで、晴事の目標や学年の目標が分かりやすい。外部講師や体系的な学習も各学年で積極的に行われており、保護者の学校理解への丁寧な対応も認め、高く評価できる。 ・teturu導入後、情報が一層広く行き渡り、地域での出来事や学習内容について、学校と保護者の間で共有が以前より安定してきたと感じる。放課後の家庭利用や情報学習が円滑に行われているのも、地域と学校のつながりの強さによるものだと思う。 ・一方で、teturuを介した情報発信については、内容や伝え方について、さらなる工夫の余地があるのではないかと感じる。	A	
		地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	コミュニティ・スクールを活用し、地域の教材化や外部人材の活用を積極的に推進し、地域との交流や地域を生かした教育活動を充実させる。 学校運営協議会において、資料を示して児童の活動や変更等を具体的に説明して、共通理解を図る。	4 全学年 年4回以上実施 3 各学年平均 年3回実施 2 各学年平均 年3回実施 1 全学年平均 年2回未満実施	3.7	A	4 保護者アンケート(4)「学校は、保護者や地域の方に対して情報発信をしている。」肯定的回答90%以上 3 保護者アンケート肯定的回答80%以上 2 保護者アンケート肯定的回答70%以上 1 保護者アンケート肯定的回答70%未満	90	A	・地域人材や関係機関との連携を図り、学習や行事の中で地域と関わる機会を設定してきたが、取組の情報発信についてはより分かりやすく伝えるための工夫が必要である。	・地域人材や関係機関との連携を継続しつつ、学習や行事との連携を図る。 ・地域人材や関係機関との連携を図るため、地域の方やボランティアの活用を積極的に進め、地域の方の協力やサポートを受け、こうした違いが対話や、地域の方が安心して協力できる土壌となっている。 ・交通ボランティアの交流があったり、参観日以外で保護者が学校を訪ねやすかったり、学校がオープンな場として開かれていると感じる。 ・学校運営協議会等を通して、学校と地域が情報を共有し、連携を深める取組を継続する。	【学校と地域との関係について】 ・管理職をはじめ教職員が「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて高い意識をもち、地域との協働活動に前向きに取り組んでいることが評価できる。 ・地域の方やボランティアの活用を積極的に進め、地域の方の協力やサポートを受け、こうした違いが対話や、地域の方が安心して協力できる土壌となっている。 ・交通ボランティアの交流があったり、参観日以外で保護者が学校を訪ねやすかったり、学校がオープンな場として開かれていると感じる。 ・学校運営協議会等を通して、学校と地域が情報を共有し、連携を深める取組を継続する。	A	
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	国語指導力の向上のため、校内研究を基盤として、言語能力を高める指導を推進し、基礎的・基本的知識及び技能の確実な習得・徹底を図る。	学習規律を確立し、ノートの作り方、発言のさせ方や板書等を共通理解し、授業実践に努める。	4 「おおむねできた」と教員100%回答 3 教員80%以上回答 2 教員60%以上回答 1 教員60%未満	3.2	B	4 児童の80%以上が課題に対する振り返りを実施 3 児童の70%以上が課題に対する振り返りを実施 2 児童の60%以上が課題に対する振り返りを実施 1 児童の60%未満が課題に対する振り返りを実施	80.1	A	・校内研究を通して、学習のねらいを明確にした授業づくりに取り組み、授業後に振り返りを行い、次の授業改善につなげてきた。 ・児童は児童が対話を活用し、思いやりの心や協働意識を高め、主体的に発言し、思考を深めるための学習に取り組むことができた。	・授業後の振り返りを行い、学習のねらいが明確に伝わる授業づくりを継続する。 ・協働学習など、考えを伝え合う活動を位置付けた学習活動を継続することで、自己の考えを更に深め、学習内容の理解や定着につなげる。	【授業・学習指導について】 ・授業参観では、児童が先生の話を静かに聴き、落ち着いた学習に取り組む様子が見られ、学習環境が安定している。 ・児童が自ら考え、意欲的に表現する授業が行われており、教員が一人一人の成長を見取りながら指導している点が評価できる。 ・国語の習熟度別指導や、低学年からの日記の実施など、ただ教えるだけでなく工夫した指導が行われている。 ・研究指定期終了後も、研究授業を全校で実施するなど、指導力向上に努める校内体制が維持されている点も評価できる。 ・学年や教員間の連携、協力の面では課題が残っているとの意見があり、校内での共通理解や協働体制の充実が求められている。 ・限られた参観機会では評価は難しいものの、研究指定期時に行われていた取組を今後も継続し、児童の学びや学習意欲の向上につなげていくことを期待する。	A	
		町田市「授業をデザインする8つの取組」から、「価値ある対話の共有」「振り返りの設定」を具現化した授業づくりをする。	授業の中で、教育活動のねらいや指導事項に沿った児童の発言等の認め合いや振り返りを意識的に授業づくりにする。	4 児童の発言等を意識的に認めた回答する教員80%以上 3 70%以上 2 60%以上 1 意識しなかった	3.5	A	4 保護者アンケート(5)「各教科の基礎的・基本的なことが身に付いてきている。」との肯定的回答で80%以上 3 保護者アンケート肯定的回答70%以上 2 保護者アンケート肯定的回答60%以上 1 保護者アンケート肯定的回答60%未満	92.5	A	・児童の80%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言し、思考を深めるための学習に取り組むことができた。 ・児童の70%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言し、思考を深めるための学習に取り組むことができた。 ・児童の60%以上が自分の考えを表現し、学び合いで発言し、思考を深めるための学習に取り組むことができた。	・授業後の振り返りを行い、学習のねらいが明確に伝わる授業づくりを継続する。 ・協働学習など、考えを伝え合う活動を位置付けた学習活動を継続することで、自己の考えを更に深め、学習内容の理解や定着につなげる。	【授業・学習指導について】 ・授業参観では、児童が先生の話を静かに聴き、落ち着いた学習に取り組む様子が見られ、学習環境が安定している。 ・児童が自ら考え、意欲的に表現する授業が行われており、教員が一人一人の成長を見取りながら指導している点が評価できる。 ・国語の習熟度別指導や、低学年からの日記の実施など、ただ教えるだけでなく工夫した指導が行われている。 ・研究指定期終了後も、研究授業を全校で実施するなど、指導力向上に努める校内体制が維持されている点も評価できる。 ・学年や教員間の連携、協力の面では課題が残っているとの意見があり、校内での共通理解や協働体制の充実が求められている。 ・限られた参観機会では評価は難しいものの、研究指定期時に行われていた取組を今後も継続し、児童の学びや学習意欲の向上につなげていくことを期待する。	A	
		主体的に学び続ける力を育む授業づくりをする。	児童が互いに生かす協働学習を充実・推進するために、大型テレビやクロムブックなどICTを活用する授業づくりを行う。	4 児童の80%以上が課題に対する振り返りを実施 3 70%以上 2 60%以上 1 意識しなかった	3.3	B	4 学習効果が高まった児童が80%以上 3 学習効果が高まった児童が70%以上 2 学習効果が高まった児童が50%以上 1 学習効果が高まった児童が50%未満	91.5	A	・ICT機器を活用し、学習内容の提示や振り返りを行うなど、授業の中心を児童に委ね、主体的に学び続ける力を育む授業づくりを継続する。	・ICT機器を活用し、学習内容の提示や振り返りを行うなど、授業の中心を児童に委ね、主体的に学び続ける力を育む授業づくりを継続する。	【ICT・学習指導について】 ・ICT機器を活用し、学習内容の提示や振り返りを行うなど、授業の中心を児童に委ね、主体的に学び続ける力を育む授業づくりを継続する。	B	
		小中一貫の教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校の決まりを守ろうとする意識を高める。	町六スタンダードの定着のため、全学級、全校体制での指導に全教員で取り組み、指導の徹底を図る。	4 「おおむねできた」と教員100%回答 3 教員80%以上回答 2 教員60%以上回答 1 教員60%未満	3.1	B	4 保護者アンケート(11)「学校のまきりや家庭でのまきりを守っている。」との肯定的回答で80%以上 3 保護者アンケート肯定的回答70%以上 2 保護者アンケート肯定的回答60%以上 1 保護者アンケート肯定的回答60%未満	95.8	A	・道徳の授業や日常の指導を通して、思いやりや規範意識について考える機会を設け、相手の気持ちを大切にしようとする姿が見られた。一方で、町六スタンダードの定着については、教員自身が課題を認識しており、引き続き指導の充実を図る必要があると考えている。	・道徳の授業や日常の指導の中で、町六スタンダードを意識した指導場面を整理し、共通理解を図りながら、教員間で指導の在り方を共有している。	【児童の成長や変化について】 ・登校時に仲間外れにならないうえに、その後、学校や学年の枠を超えて一緒に遊ぶ姿が見られ、学校全体での関わりが広がりを感し、安心した。 ・6年生男子の成長が印象的である。以前は集団のルール遵守や協力に課題が見られたが、現在は担任との信頼関係のもと、学校全体に誇りを感じられる。粘り強く一人一人に寄り添った指導の成果を強く感じた。 【主体的な学びや交流について】 ・グスタフ・グスタフの授業では、友達と共に学ぶことで新しい知識を素直に触れる姿が見られ、学年を超えた交流を通して責任感や思いやりの心が育まれていると感じる。 ・行事や日常の取組を通して、集団のまきりを守り、この学年でも協力する姿が見られる。やまばの児童の児童との交流も自然に行われ、豊かな心が育まれていると感じる。 【豊かな心の育成に関する成果と課題】 ・「本をよく読んでいる」という項目では、保護者・児童ともに否定的な回答が3〜4割見られる。情報が容易に得られる時代だからこそ、異なる考え方や世界に触れる手段として、読書の在り方について改善が求められている。 ・豊かな心を育む教育実践に全校で取り組んできた結果、児童アンケートからも児童の意識の変化が確認でき、評価できる。 ・一方で、指導を要する問題行動も発生しており、即時解決が難しい事例も見られる。学校は情報把握と対応に努めているが、今後は家庭・地域と連携しながら解決する力を高めていくことが期待されている。	A	
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切に育む意識・意欲・態度を育てる。	道徳教育や学級を中心とした様々な人との関わりを充実させる活動を通して、豊かな心を育む。	年6回以上いじめや人権に関する授業を実施する。	4 年に6回以上実施 3 年に4回以上実施 2 年に3回以上実施 1 実施しなかった	3.5	A	4 保護者アンケート(10-2)「お子様は、自分も他の人も大切にしようとする気持ちが育っている。」肯定的回答90%以上 3 保護者アンケート肯定的回答80%以上 2 保護者アンケート肯定的回答70%以上 1 保護者アンケート肯定的回答70%未満	97.5	A	・異学年交流や肢体不自由学級との交流を通して、立場や年齢の違いを意識しながら関わる活動を行ってきた。また、地域や社会との関わりを意識した取組を学習や行事の中に位置付けて実施した。	・異学年交流や肢体不自由学級との交流を通して、立場や年齢の違いを意識しながら関わる活動を行ってきた。また、地域や社会との関わりを意識した取組を学習や行事の中に位置付けて実施した。	【児童の成長や変化について】 ・登校時に仲間外れにならないうえに、その後、学校や学年の枠を超えて一緒に遊ぶ姿が見られ、学校全体での関わりが広がりを感し、安心した。 ・6年生男子の成長が印象的である。以前は集団のルール遵守や協力に課題が見られたが、現在は担任との信頼関係のもと、学校全体に誇りを感じられる。粘り強く一人一人に寄り添った指導の成果を強く感じた。 【主体的な学びや交流について】 ・グスタフ・グスタフの授業では、友達と共に学ぶことで新しい知識を素直に触れる姿が見られ、学年を超えた交流を通して責任感や思いやりの心が育まれていると感じる。 ・行事や日常の取組を通して、集団のまきりを守り、この学年でも協力する姿が見られる。やまばの児童の児童との交流も自然に行われ、豊かな心が育まれていると感じる。 【豊かな心の育成に関する成果と課題】 ・「本をよく読んでいる」という項目では、保護者・児童ともに否定的な回答が3〜4割見られる。情報が容易に得られる時代だからこそ、異なる考え方や世界に触れる手段として、読書の在り方について改善が求められている。 ・豊かな心を育む教育実践に全校で取り組んできた結果、児童アンケートからも児童の意識の変化が確認でき、評価できる。 ・一方で、指導を要する問題行動も発生しており、即時解決が難しい事例も見られる。学校は情報把握と対応に努めているが、今後は家庭・地域と連携しながら解決する力を高めていくことが期待されている。	A	
		正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	様々な人との関わりをもち、集団のまきりを守り、仲間として協力する態度を育むために、異学年交流であるなかよしタイムや特別支援学級との交流を計画的に実施する。	4 学期に2回以上実施 3 学期に1回実施 2 年間1回実施 1 実施していない	3.7	A	4 保護者アンケート(19)「お子様は、学校や地域で他の学年や学級の児童と交流している。」肯定的回答90%以上 3 保護者アンケート肯定的回答80%以上 2 保護者アンケート肯定的回答70%以上 1 保護者アンケート肯定的回答70%未満	84.2	A	・体育の授業を中心に、基礎的な運動技能の向上を意識した指導を行ってきたが、体を動かすことへの前向きな姿勢の広がりに関しては、十分とは言えない。 ・給食指導や食育を通して、食事の大切さや望ましい食習慣について考える機会を設け、日常の指導の中で継続的に取り組んでいく。	・体育の授業では、体力テストの結果を参考にしながら、体を動かすことへの前向きな姿勢の広がりに関しては、十分とは言えない。 ・給食指導や食育を通して、食事の大切さや望ましい食習慣について考える機会を設け、日常の指導の中で継続的に取り組んでいく。	【運動・体力向上について】 ・コロナ禍、運動会が半日開催となったことは社会情勢や働き方改革、家庭の負担を踏まえたと理解できるが、高学年のリレーについては運動会の締めとして復活を期待したい。 ・3年生の大規模な場面では、暑さを理由に活動を続けられない児童が見られた。外遊びが制限されやすい時代だからこそ、学校教育における体力育成への期待は大きく、教科横断的な運動や地域と連携した取組の工夫が求められる。 【学校での取組について】 ・コロナ禍が落ち着いた現在は、熱中症対策に留意しながら外遊びが行われており、秋開催の運動会、地域の取組、音遊み、持久走大会、町六祭りなどが体力向上につながっていると感じる。 ・異常気象の影響が児童の学校生活に大きく影響した一年であり、体力・運動能力の低下への対策は重要な課題として、引き続き取組の検討に実施を期待したい。 【家庭との連携、生活習慣の課題について】 ・日常の運動や体力テストの分析について、保護者・教員ともに3〜4割が否定的な回答であったことから、学校と家庭が話し合う機会をもつことが望ましい。 ・朝ごはんを食べる習慣が定着している点も評価できる一方、早寝・早起きの評価が前年度より低下しており、家庭との協力による改善が期待される。 ・携帯電話やクロムブックなどの活用は、生活習慣や健康に影響を与えることから、家庭と連携しながら健全な生活を送れるよう見守りが必要な指導が行われることを期待したい。	B	
		校内の安全な生活環境を整え、自分を守り、相手を守る安全教育の実施と危機管理体制を確立する。	児童の実態や体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や体育的行事、休み時間などの機会を通して、運動の日常化を図る。	4 「おおむねできた」と教員100%回答 3 教員80%以上回答 2 教員60%以上回答 1 教員60%未満	2.6	C	4 保護者アンケート(16)肯定的回答80%以上 3 保護者アンケート肯定的回答70%以上 2 保護者アンケート肯定的回答60%以上 1 保護者アンケート肯定的回答60%未満	83.4	A	・遊びのルールや廊下歩行などの学校の決まりについて、日常の生活場面や指導の機会を捉えて繰り返し指導を行っている。児童が安全に学校生活を送ることができ、今後も継続して指導を行っていき、継続して指導していく。	・校内での情報共有を、安全管理に努めるとともに、保護者に対しては、teturu配信を活用して感染症の状況や不審者情報等を適宜共有してきた。	・校内での情報共有を、安全管理に努めるとともに、保護者に対しては、teturu配信を活用して感染症の状況や不審者情報等を適宜共有してきた。	【校内での取組について】 ・校内での情報共有を、安全管理に努めるとともに、保護者に対しては、teturu配信を活用して感染症の状況や不審者情報等を適宜共有してきた。	A
		児童の心身の安全・安心を保障するための危機管理情報(健康・問題行動・安全管理情報等)を校内で共有し、共通指導の徹底を図る。	児童の実態や体力テストの結果分析を生かした体育科の授業や体育的行事、休み時間などの機会を通して、運動の日常化を図る。	4 場面を捉え90%以上指導実施 3 場面を捉え80%以上指導実施 2 場面を捉え70%以上指導実施 1 場面を捉え指導70%未満	3.7	A	4 保護者アンケート(13)「交通安全事故防止や不審者対応などの安全意識が身に付いている。」肯定的回答80%以上 3 保護者アンケート肯定的回答70%以上 2 保護者アンケート肯定的回答60%以上 1 保護者アンケート肯定的回答60%未満	91.7	A	・校内での情報共有を、安全管理に努めるとともに、保護者に対しては、teturu配信を活用して感染症の状況や不審者情報等を適宜共有してきた。	・校内での情報共有を、安全管理に努めるとともに、保護者に対しては、teturu配信を活用して感染症の状況や不審者情報等を適宜共有してきた。	【校内での取組について】 ・校内での情報共有を、安全管理に努めるとともに、保護者に対しては、teturu配信を活用して感染症の状況や不審者情報等を適宜共有してきた。	A	

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)

取組指標平均 3.5以上	⇒ 評価A
取組指標平均 3以上3.5未満	⇒ 評価B
取組指標平均 2以上3未満	⇒ 評価C
取組指標平均 2未満	⇒ 評価D

成果指標評価基準

成果指標平均 80%以上	⇒ 評価A
成果指標平均 70%以上	⇒ 評価B
成果指標平均 55%以上	⇒ 評価C
成果指標平均 55%未満	⇒ 評価D

学校関係者評価の評価基準について

A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる
B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。